



安行小だより

安行小学校 4月号

令和4年4月8日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校

149年目の朝に

校長 春川 嘉孝

このたびの人事異動により、安行小学校に参りました。地域、保護者の皆様方とともに、諸先輩の先生方が築かれた本校の歴史と伝統の名に恥じぬよう、微力ではございますが力を尽くしてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、4月1日の朝、夜半からの雨もあり少し肌寒い朝でした。安行小の門をくぐると、桜が満開でした。校庭に目を向けると緑の大樹、やぎの鳴き声。この素晴らしい自然環境の中で、本校に通う子供たちは、豊かな体験を通して、自然を愛し、自然とともに生活している。今までにどれだけたくさんの子供たちが、この場所で活動し、学びを深め、成長していったのか。この豊かな自然を守るために、厚いご支援をくださる地域の方や保護者の皆様の思いにこたえていく気持ちを強くしました。

今年度の「目指す学校像」は「よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校」といたしました。

「よさを認める」これは、自己肯定感を高めます。自分のよさ（＝強み）に気づき、生かすことは「自分らしく生きる」ことにつながり、それが、互いを認め合う気持ちや行動になります。本校では、一人一人のお子さんの「よさ」を的確に把握し「伸ばす」ことで自信のもてる子に育てます。

「学び合い高め合い」現代の社会は、答えのない課題、一人では解決できない問題が山積しています。「～合い」は決して一人ではできません。一つの課題（問題）に向かって「ああでもない、こうでもない」とやり取りを繰り返し、一つの方向性を見出していくことが、これからの教育、社会には不可欠だと考えます。その力をつけるために、授業の充実、家庭との連携を図りながら、学校・家庭で子供たちの学力をつけてまいります。

そして、それを支える「やる気と笑顔」。学校は、子供たちに学力も社会性も身に付ける場です。一人一人の子供たちが、「まじめに、あかるく、がんばる」ことができる教育を進めてまいります。

「No one left behind」これは「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念です。現在の世界情勢、新型コロナウイルス感染症など、とても簡単には解決できない世界規模での問題が起きています。これらの問題の根本には「人権」という本来、一人一人がもち、守られている権利があります。SDGsは世界の目標です。あらゆる国や地域、企業、もちろん学校現場でも取り上げられています。地球・世界という大きな視点にたって、それを支える「一人一人の人権感覚・人権意識」をより身に付けていきたいと感じます。149年という歴史と伝統のある安行小。今後も家庭、地域の皆様と一体となって「(子供たちが)安心して行ける。(保護者の皆様が)安心して行かせる。そして、安全が行き届いている学校」を創るために全教職員が一丸となって、努める覚悟でございます。よろしく願いいたします。

